

The background features a repeating pattern of overlapping, rounded rectangular shapes. The shapes are arranged in a grid-like fashion, with each shape overlapping its neighbors. The colors used are a light blue and a light green, creating a layered, geometric effect.

Q & A

Q. 本人や家族への説明は必要か

A.

- 介護保険サービスの契約に基づいた業務の一環とみなされるため
改めての説明は必ずしも必要ではない

Q. 家族は話し合いに参加するべきか

A.

- 基本的に**家族**には話し合いへの参加を**依頼しない**
- 家族に**情報提供**はお願いする
(例：食事の摂取状況、夜間の睡眠状況)

Q. どのような利用者と始めるのか

A.

- ケアスタッフが対応に困っている利用者
 - 行動・心理症状が顕著に表れている
- 協力が得やすいサービス事業所
 - 利用している（居宅介護）サービスが少ない人
 - 同一法人のサービスを利用している人

Q. 在宅で食事や睡眠の把握が難しい

A.

- ご本人と同居する家族がいれば
情報提供をお願いします

大項目 作り方

58

- コミュニケーションの障害に合わせた**基本的な対応**
- **背景要因**に焦点をあてる
- 誰が読んでも理解できて同じように実行できる
具体的で簡単なこと

- ご家族ではなく、**ケアスタッフが行うこと**
- ご家族はご本人のニーズを知る重要な情報提供源
- ご家族が何かをする設定のケアプログラムは
うまくいった例がない

Q. 事業所の協力を得るのが難しい

A.

- 協力を得やすい事業所に依頼する
アドミニストレーターの事業所と同一法人 など
- 利用者さんに関わるサービス事業所の
全て参加にはこだわらず
デイケアなど集まれる**可能なところ**から
小さく始める

Q. ケアプログラムの説明が難しい

A.

- 動画やリーフレットを用いて説明する
事業所、ケアスタッフに**動画視聴**をお願いする

説明用の素材 (動画+リーフレット)

132

東京都医学総合研究所 心の健康プロジェクト

<http://www.igakuken.or.jp/mental-health/>

Promotion Video



紹介リーフレット はこちからです (PDF 2.5MB)

Q. 話し合いの日程調整が難しい

A.

- 次回の日程を確実に決める
- 事前にメンバー間で設定する
(例：第3水曜日18時)
- 電話・メール連絡で日程調整を行う
- 勤務表が出る時期を事前に確認する
- パートのケアスタッフが含まれる場合は
事業所の了解を得て業務時間内に行うよう調整

Q. 話し合いはどこで行えばよいか

A.

- 以下のような機会を利用する
 - サービス担当者会議の後に行う
 - 居宅介護支援事業所で行う
 - 他のサービス事業所へ出向く

Q. サービス担当者会議に組みめない

A.

- サービス担当者会議での話し合い開催はあくまで一例であり、ルールではない
- サービス担当者会議とは別に話し合いの日程を決めることも選択肢

Q. 集まって話し合うのが難しい

A.

- 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて
ウェブ会議（zoom等）での話し合い、
それも参加が難しい人には**電話で聞き取り**、
などの対応を行う

Q. 話し合い前にすべき工夫はあるか

A.

- NPI評価や背景要因の**項目**をファックスで送り
事前に**目を通す**ことを依頼する
- 集まるのが難しい事業所には
電話で聞き取りをして評価を行う
- 話し合いのときにNPI評価等の項目を
参加者**全員**が見られるよう**コピー**して手渡す

Q. コピーはどこまで渡して可か

A.

- コピーして手渡すことが可能なものは2つ
 - 研修テキストの**NPI評価尺度**
 - チームケア記録用紙

Q. 薬の名前が分からない

A.

- お薬の**説明書**や**お薬手帳**を見て
記載されている通りの名称を記入する



Q. どのようなケア計画を立てるのか

A.

- 行われている「**良いケア**」を掘り起こしてケア計画に組み込む
- 他のケアスタッフもできるように具体的に表現例：
 - 名前で呼ぶ
 - 握手して目を合わせてから、ケアを行う
 - 移動時には手をつないで歩く
 - 好きな音楽をかける

Q. ケア計画などの参考事例はないか

A.

- 東京都の「とうきょう認知症ナビ」に**活用事例**が掲載されている

133

東京都 とうきょう認知症ナビ

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/zaishien/ninchishou_navi/torikumi/careprogram/index.html



The screenshot shows the website interface for 'とうきょう認知症ナビ' (Tokyo Dementia Navigation). The main heading is '認知症ケアプログラムの普及' (Prevalence of Dementia Care Programs). The text explains that dementia is a condition where cognitive functions decline due to brain cell damage, leading to behavioral and psychological symptoms (BPSD). It notes that BPSD is a significant factor in the continuation of home life. The page highlights the 'Japanese BPSD Care Program' as a key initiative in Tokyo, supported by the Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and the Swedish model. It also mentions that the program is implemented in various care facilities and aims to support caregivers through a system.

DEMBASE

Q. 評価と入力に分けないとだめか

- 話し合いをしながら
評価を**その場で入力**することも可能
- スマホやタブレットを
話し合いの場に持参して入力する
- 訪問先の事業所で可能であれば
インターネットに接続しているパソコンを
お借りして入力する
- **30分**以上操作しないでいると**自動で
ログアウト**になることに気を付ける

Q. 利用者IDが誰か分からなくなりそう

A.

- システムには利用者の**氏名**を入力しない
- 利用者IDと氏名の**対応表**は
各事業所で作成して
保管をお願いします

システムの外での情報管理

125

- システムには**個人を特定する情報は入れない**
- ひとりのアドミニストレーターが複数の利用者さんをシステムに入力する場合、**どのIDがどの方か**分からなくなるおそれ
- 各事業所でケアプログラムに参加している利用者さんの**リストを作成し、保管**する